

「火の神乙女太鼓 爽」の今



枕崎の太鼓チーム「火の神乙女太鼓 爽」は、今年で結成19年目を迎え、市内でのイベントなどを中心に演奏し、枕崎を盛り上げています。そんな「火の神乙女太鼓 爽」ですが、近年はメンバーの減少が続いています。今回の特集では、「火の神乙女太鼓 爽」の今に迫ります。

「火の神乙女太鼓 爽」

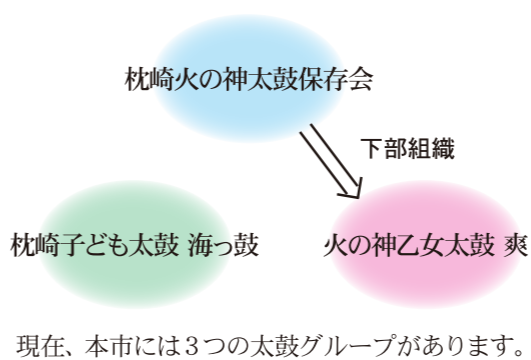
「火の神乙女太鼓 爽」は、枕崎の「海・風・祭」をテーマに曲を作り、枕崎の良さを太鼓を通して表現し、広く全国に知ってもらおうと活動しています。地元、枕崎

火の神太鼓保存会の下部組織として平成12年に発足し、今年で19年目を迎え、市内外や県外で演奏を行っています。

今年の9月1日に行われた枕崎市制施行70周年記念式典では、全国大会に出場し、本市の知名度向上に貢献したとして、市功労者表彰(特別功労部門)を受けました。



枕崎市制施行70周年記念式典での表彰の様子



始まりは9人の女子生徒

「火の神乙女太鼓 爽」は、枕崎高校の女子生徒9人が和太鼓をやりたいと平成12年に結成し、当時は「枕崎火の神乙女太鼓」という名で活動していました。チーム名の「乙女」は、この女子生徒に由来しています。今では毎日のように市民会館で練習していますが、発足した当初は、太鼓の音が周囲の迷惑にならないようにと太鼓に毛布を掛けて打ち込みの練習していた時期もあったそうです。

そして、発足の3カ月後、県大会に初出場。強豪を抑えて初優勝し、結成後わずか3カ月で全国大会へ出場するという快挙を成し遂げます。それ以降、引き続き全国大会を目指せとメンバーの数も増え、一時期は33人もメンバーがいました。

しかし、2度目の全国大会出場は簡単なものではありませんでした。県大会優勝後、練習にも熱が入り、「もっと上を、全国どこでも通用する演奏を」と目標は高くなっています。結果がなかなか伴いませんでした。見た目の華やかな演奏と違い、練習は基本を中心とした地味な練習。思い描いていたものとの違いから辞めていく人もいました。そして、メンバーの数は徐々に減っていき

ました。

新たなスタート、そして、鹿兒島を代表する太鼓チームへ

平成20年には小学生3人、中学生2人の5人となりました。この年の8月、「枕崎火の神乙女太鼓」は「火の神乙女太鼓 爽」と名前を改め、新たなスタートを切ります。5人でのスタートということで、5つの「人」を取って、「爽」と名付けました。そして、それまでの「どうしたらもう一度全国大会に出場できるか」という考えではなく、「どのような演奏をしたら全国大会で優勝できるか」を考えて練習するようになりました。

すると、その年の県大会では3位、平成21年度は準優勝、22年度から26年度は優勝、27年度準優勝、28年度から30年度は優勝という結果を残し、平成21年度から10年連続県代表として全国大会へ出場しています。その間、全国大会で4位入賞が1回、5位入賞が1回、特別賞を5回受賞しました。また、平成25年の2月には台湾公演、10月には韓国公演に出演し、太鼓の魅力を世界に発信するなど、鹿兒島を代表する太鼓チームへと成長しました。